

過疎と高齢化社会に対する私の提案 市民のみんながマッサージができる街に



森林療法と統合、補完 代替医療が受けられる街

兵庫県では今後急速に進む過疎化と高齢化に対する対策として、県が独自の21世紀の新しい街をつくり、先頭を切ってその成果を国の内外にアピールしていこうとする構想がある。その新しい街は兵庫県の中心、三宮から西へ25キロ、小野市郊外に広がる緑豊かな丘陵地にあり、1000戸ほどの高齢者向けの賃貸住宅地区と、もうひとつは森林療法と統合、補完代替医療を受けることができる、健康づくりの地区からなる340haの新しい街である。統合、補完代替医療は標準医療以外の医療と定義されているが、そこには、今の医療にいちばん欠けている患者さんとのふれあいが基本になくは、新しい医療とは言えない。ふれあいが基本にある医療によって患者さんが自分に対する、自分の

体に対する意識が大きく変わるこ
とが大切である。

私たちが治療グループは20年ほど前、フランス、パリの市民グループ、ブルーラインと交流をしていた。ブルーラインは若者たちが多くの寄付を募ってつくったボランティアグループで、彼らは特にながんの患者さんの窓口となり、そのがんの患者さんがどのような治療を受けたいのかを把握し、それに見合う医師を紹介していた。どの医師がどんな治療を行っていたかのたくさんの情報を持っていて、治療を受ける側が治療をする医師を選んでいこうとするものだ。そのグループ名のブルーラインは、彼らを窓口とした何人かのがんの患者さんが青い光を感じて、がんから急速に回復していったことからブルーラインと名付けられた。がんを診断された患者さんは、どん底に落ち込んでしまいが、そこから回復していく患者さんもう

る。どん底に落ち込んでいた患者さんがどん底をターニングポイントとして這い上がってくるときに、その患者さんは心に大きな変化が見られる。「死が怖くなくなりました」といったようなことを一往に言っている。その大きく心が変化したときにブルーの光を見るのである。世の中が違って見えたということなのであろう。

「先生の治療は 一期一会の治療です」

先日、世界で日本庭園をつくっている、南米にお住まいの方が関節炎の患者さんとして治療室にいられた。彼女からとてもいい話を聞くことができた。私の治療を受けて「先生の治療は一期一会の治療です」と言ってくれたのである。私にとって一期一会は、「時間は流れていくので今は一度きりだから、出会った今を大事にしなくてはいけない」という意味に捉

えていた。でも彼女の一期一会は意味が違っていた。彼女が海外で日本庭園をつくるときには、その庭園に来た人の心に、一瞬にして違う世界をつくってみたいという思い入れがあり、それが一期一会であり、「茶室での世界も同じです」と話された。彼女にとって、私の治療を受ける前と受けた後は、世界が変わったということになる。これもターニングポイントとなるのであろう。

患者さんにターニングポイントをつかんでもらうにはどうしたらいいのかを考えた場合、都市型の医療だけでは難しいと考える。森を散策でき、その土地の美味しいものを食べ、温泉に入り、そしてアロマセラピーも受けることができ、そんな環境のなかで統合、補完代替医療センターをつくり、いろいろな医療を受けることができる空間があれば、もつと多くの患者さんに大きな心の変化をつかんでもらい、病気の回復に繋がるものと確信している。そのモデルを兵庫県でつくってみようと、県に對しいろいろな提案をしてきたが、残念ながら多額の財政難で新規事業は先送りの状態で、この構